

学生による本の紹介

- ◆ 著者名でまとめてあります。
- ◆ 自分が紹介しているのと同じ本でも、他人が紹介すると全く違う観点で見ていることがわかるかもしれません。

M. チクセントミハイ 大森弘訳	フロー体験入門	子どもの頃、遊ぶことに熱中して親の呼びかけにさえ気が付かないという体験をしたことがあるかもしれない。そこでは時間の経過を忘れ、迷いがなく、一種の充足感があったかもしれない。対照的に、大人になるにつれて日々の生活は高すぎる目標または低すぎる目標を持たなければならず本来あるべき目標を持ってない。そのために不安や退屈といったものを繰り返す日々をおくる。この本では子供時代の心理の仕組みについて解説している。
SIR ARTHUR CONAN DOYLE	SHERLOCK HOLMES SHORT STORIES	この本はシャーロックホームズの short story のシリーズ本で、一つの本に三つの話が入っている。中でも一番面白い話は、THE SPECKLED BAND で、家族内で殺人が起こり、姉が死んでしまってその妹がホームズと助手のワトソンに助けを求めて訪ねて来たところから話が始まる。家族の中に犯人がいて、THE SPECKLED BAND が凶器なのだが、読み進めると凶器はただの汚れた紐ではなかった。
TEX 加藤	TOEIC L&R test 出る単特急金のフレーズ	この本は TOEIC 対策用の単語帳である。これからこの本の良いところを 2 点にまとめる。1 点目は自分の目指したい点数ごとに単語が分けられているところである。こうすることで無駄にレベルの高すぎる単語を覚える必要がなく時間の短縮になって良い。2 点目は単語 1 つ 1 つに意味以外に TOEIC 内での主な使い方などさまざまな便利なことが載っているのにより記憶に残りやすく効率よく覚えられるという点で良い。
あさのあつこ	NO.6	2013 年の理想都市「No.6」。エリート居住区に住む紫苑は 12 歳の誕生日の夜、特別警戒地域から逃走した少年「ネズミ」と出会う。その瞬間から紫苑の人生が変わり始める。何でも答えを与えてくれる管理された都市「NO.6」そこからでて、紫苑にとっての常識を覆すネズミと行動することで、「自分で見聞きすること」や「自分の言葉で表現すること」を知り、成長しながら「No.6」の隠された闇を暴いていく物語。

コメント [依岡1]: 英語の本を読んだのですね。結構だと思います。

コメント [依岡2]: この部分を読みどころとして強調したらどうでしょうか。

あさのあつこ	敗者たちの季節	夏の甲子園をかけた高校野球地区予選の決勝で、主人公が所属する海藤高校は東祥学園高校に敗れてしまう。しかし東祥学園高校が甲子園出場を辞退し、海藤高校の甲子園出場が決定する所から始まる、両校の球児や周りの大人たちの物語である。タイトルにもあるように登場人物は何かには敗れた人間ばかりであり、敗北に向き合い、立ち上がり、再び立ち向かっていく姿に勇気をもらえる一冊である。
ウリー・ニューズィー、ジョン・A・リスト 訳:望月衛	その問題、経済学で解決できます。	この本のテーマは「行動経済学」だ。身近な7つの問いに対して最新の経済学が出した答えが多角的な視点から考察されている。例えば、子供の成績を上げるためにはという問いに対してアイデアを提案し、実験・検証を重ねた上で、ご褒美をテストの前に渡すことが最も有効であると結論付けている。答えを導くまでに繰り返される実験に自分なりの考えを持ちながら読み進めることで行動経済学の面白さが味わえる一冊となっている。
クリス・カイル、ジム・ディフェレス、スコット・マキューエン。 田口俊樹訳	アメリカン・スナイパー	1人のアメリカ軍兵士クリスという男の話。戦場では多くの敵を殺し仲間からレジェンドと言われるほどの狙撃の天才。殉職した仲間のためにも戦場に行かなくてはならない気持ちと妻や子供たちのためにもう戦場には行くべきでは無いという気持ちとの葛藤の中イラク戦争に4度従軍する。そして、この過酷な戦場体験でクリスはPTSDを発症してしまう。このような1人の兵士の波乱の人生から「戦争」について今一度考えさせられる本。
さくらももこ	もののかんづめ	この本は、テレビアニメとして有名な「ちびまる子ちゃん」の作者が書いたエッセイです。筆者が大人になってから体験したこと、「まる子」だった時に考えたことなどが面白おかしく書いており、非常に読みやすいエッセイです。あまり考えずに読める本なので、読書が苦手な人にもオススメです。イラストも時々付いており、漫画を読んでいるような気持ちにもなります。
サン＝テグジュペリ。ドリアン助川訳	星の王子さま	ある日作者の乗る飛行機が人が住んでいる所から千マイルも離れた砂漠に不時着し、そこでこの本の題となっている「星の王子さま」と出会う。王子さまは様々な星を旅したのちに地球に辿り着いた。この本には、王子さまが旅をした星での癖のある大人との出会い、そして作者と出会い別れるまでが書かれており、大人になると分からなくなってしまう子供ならではの物の味方や、本当に大切なものは何なのかについて改めて考えさせられる。
サン＝テグジュペリ。河野万里子訳	星の王子さま	飛行機を操縦していた主人公はある日、砂漠へ不時着する。そこで出会ったのが、B612という星からやって来た星の王子さまだ。王子さまは、大切にしていたバラと仲違いをしまい、はるばる地球へやって来た。澄み切った心を持つ王子さまは、地球でたくさんのお話を主人公と共に学び、大切なことに気づいていく。果たして、王子さまが自分の星へ帰る時は来るのか、バラと仲違

コメント [依岡3]: 「いて」

コメント [依岡4]: 「作者との出会いと別れ」

コメント [依岡5]: 「見方」

コメント [依岡6]: 「大切なこと」とは何でしょうか？それも書いた方がいいですね。

		いしたままではいけないと気づくことができるのか。
サンキュータツオ	もっとヘンな論文	お笑いコンビ「米粒写経」として活動する傍ら、一橋大学、早稲田大学、成城大学で非常勤講師も務めるサンキュータツオが、中学生の自由研究や大学の卒業論文、アマチュア研究者からプロの研究者まで、幅広い人々の珍研究や珍論文を、軽快な文章にツッコミを交えて紹介する。一見意味のなさそうなことを純粹に、真剣に追究する人々の情熱を感じられ、「こんなことまで研究の対象になるんだ!」という驚きももたらしてくれる。
ジェームズ・W・ヤング	アイデアのつくり方	本書は本文・解説・訳者あとがきの三つに分かれており、総ページ数は 100 ページ、本文そのものは 60 ページにも満たないので非常に手軽に読むことが出来る。内容はタイトル通り「アイデアのつくり方」であるが、その中で自分の印象に残ったことは、「兎に角基盤を固めること」である。適当であるようにも思えるが、個人的にはそのほうが「アイデアつくり」という抽象的な物事を説明するのには十分だと感じた。
ジャン フェクサス (著) 高遠 弘美(訳)	うんち大全	「うんこドリル」が売れに売れ、世間を賑わしたのは記憶に新しいと思う。排泄物は汚いものだと思いつつも心のどこかには糞尿への好奇心があるのだ。そんな糞尿への情熱を満たしてくれるのがこの一冊「うんち大全」である。人類と糞尿との付き合いは長く、そのエピソードは数知れず、なかなか興味深い。糞尿に関するトリビア、まさに「うんちく」を授けてくれる、マニアもそうでない人も楽しめる一冊だ。
ダン・ブラウン。越前敏弥訳	天使と悪魔 上	この本の内容はバチカンを狙う秘密結社イルミナチエーの陰謀でコンクラーベの最中に候補者 4 人が何者かに誘拐される。そのイルミナチエーの陰謀に図像学者ラングドンが立ち向かうというストーリーだ。私はこの本を読むまでは宗教の世界と科学の世界は全く違うものと考えていたが、この本を読んで科学と宗教がこんなにも密に関係しているのかと感じた。読めば世界観が変わる本なのでぜひ読んでほしい。
ドストエフスキー。 工藤精一郎訳	罪と罰 上	この作品の舞台は 19 世紀後半のロシア、ペテルブルグの町である。主人公である貧乏な大学生のラスコーリニコフは、正義の名の下ではどんな罪も許されるという考えで、強欲非道な金貸しのおばあさんを殺すが、誤ってその妹まで殺してしまう。その予定外の殺人がラスコーリニコフに重くのしかかってくる。個性豊かな登場人物との出会いを経て変わっていくラスコーリニコフの心境や信条、そして人生を書き綴った作品である。

コメント [依岡7]: なぜそう言えるのでしょうか? もう少し説明がほしい。

コメント [依岡8]: 「下」は読んでないのでしょうか?

フォン・シーラッハ、フェルディナント。酒寄進一訳。	禁忌	舞台はドイツ。主人公のエッシュブルクは、数字や人物に色を感じる共感覚の持ち主である。幼い頃に、父の自殺に絶望する。しかし、写真家として活躍していた最中、殺人の疑いで逮捕されてしまう。彼は本当に人を殺したのか？ 罪とは何か、どういう基準でそれを罪とするのか、ということを深く考えさせられる現代における『罪と罰』のような作品である。さらに、司法機関の在り方や芸術の役割についての作者の思想も注目したい。
フランス カフカ。高橋義孝訳	変身 x カフカ	仕事に日々追われていたグレゴール・ザムザがある朝突然毒虫になってしまい、その日からザムザやその家族の日常が変わっていく。なぜ変わってしまったのかなどまったく謎のまま、 <u>ぼのまま</u> 、まるで何も起こらなかったように日常が過ぎる様子を人の感情をはさみずに冷静に事実のみを伝えている。
フランス・カフカ。高橋義孝訳	変身	主人公のグレーゴルがある朝、目を覚ますと自分の体が巨大な虫になっていることに気づいた。仕事や家族も会った彼だったがこの一件によって仕事にも行くことができず、家族にも自分の姿を見せることができなくなる。しかし妹に代わってしまった自分の体を見られてしまい、家族から距離を取られてしまう。主人公の心情や行動をまるでレポートのように細かく書かれており最後まで目が離せない作品になっている。
フランス・カフカ。高橋義孝訳。	変身	主人公グレーゴルは、ある日目を覚ますと巨大な虫に変身していた。グレーゴルは家族から冷たくあしらわれたが、家族の態度に決して腹を立てたりすることはなかった。母と妹の前に姿を現してしまったことで父親からリンゴを投げつけられたグレーゴンは、感動と愛情を持って家族のことを思い返し、自分が消えなければならないことを受け入れ、静かに死んだ。 <u>そして、残った家族はその土地を離れ、新しい生活を始めようと決意する。</u>
バス・シャピロ。宇丹貴代実訳	マンモスのつくりかた 絶滅生物がクローンでよみがえる	この本は、マンモスを現代の技術を用いてよみがえらせることは可能なのかということに注目しながら、絶滅した生物をよみがえらせることが我々にもたらす影響についてかんがえる本です。絶滅した動物をよみがえらせることは倫理的によくはないのかという意見もあれば、よみがえらせてあげないことのほうがよくないことだという意見もあるということが非常に興味深かったと思います
ヘッセ、ヘルマン 高橋健二訳	シッダールタ	婆羅門の家に生まれ、母や父、友人からの寵愛を受けて育ったシッダールタ。しかし、自分の幸福を満すため、家を出ることを決めた。 <u>しかし</u> 、多くのことを学び、経験したが、沙門も仏陀も自分が求めるものではないと感じた。そしてヴァズベータに出会い、河の声から凡そ生きとし生けるもの一切の声を聞くことができることを彼から聞く。そしてシッダールタは河から多くのこと

コメント [依岡9]: ? なくてもいいですね。

コメント [依岡10]: あらすじだけではなく、読みどころを書いてほしい。

コメント [依岡11]: 「しかし」は重ねて使わない方がいいですね。

		を学んでゆく。
ミヒヤエル・エンデ 大島かおり訳	モモ	主人公のモモが時間泥棒にとられた時間を取り返すために冒険に出る物語です。現代社会に生きる私たちは常に無駄を割き、効率良くすることを考える傾向にあります。また何に対しても数字で表し、評価をします。世の中はそれらによって快適になりましたが、果たしてそれは幸せと言えるのかという問いを作者はこの本を通して読者に投げかけ、資本社会が広がる社会に警鐘を鳴らしています。グローバル化が推奨される今読むべき本です。
ルイス・キャロル。 穂村弘訳	スナーク狩り	船長ベルマンと他 8 人と一匹の奇想天外な乗組員で、誰も見たことのない怪物スナークを捕まえに行く話。「五・七」のリズムを任意の回数繰り返す、最後を「五・七・五」で終える日本の長歌形式で書かれている。
ルーシー&スティーブン・ホーキング	宇宙への秘密の鍵:ホーキング博士のスペース・アドベンチャー	宇宙について物語を読み進めるうちに知識が増え、ますます興味を持てるようになる本。小学生のジョージは飼っている豚を探すうちに隣の家にある不思議なコンピュータ“コスモス”を見つけます。コスモスはなんと宇宙空間への扉を開けることができます。そこで知り合った新しい友人と宇宙旅行に出かけたり、コスモスをめぐり事件が発生したりします。わかりやすい言葉で書かれた宇宙についての話は子供だけでなく大人をも魅了し、いつのまにか全シリーズ 5 冊を買ってしまっています。
阿川佐和子	聞く力 心をひらく 35 のヒント	キャスターとしてこれまで多くの人にインタビューをしてこられた、阿川佐和子さん流のコミュニケーション術が書かれた本です。初対面の人にはどう接したらよいか、聞きにくい話を突っ込むにはどうしたらよいか、話が脱線してしまったときにはどうすればよいかなど、細かく分類して説明されています。相手の雰囲気やテンポに合わせ、会話を進めていくなどといった、聞き上手になるために重要な要素がつまっています。
綾辻行人	Another(アナザー)	東京から離れ夜見山市の中学校に転校してきた榊原恒一はクラスで不思議な雰囲気を持つ少女、見崎鳴に惹かれる。同時に他のクラスメイトが何かに怯えた様子で彼女をいないものように扱う状況に違和感を感じていた。そんなある日一人のクラスメイトが悲惨な死を遂げそこから次々と死者が出始める。そして彼は 3 年 3 組にかかった恐ろしい呪いを知り、鳴との交流を通して超常の事態に翻弄されながらも現象に深く関わっていく。
伊坂幸太郎	重力ピエロ	過去に辛い出来事を経験した主人公の泉水とその弟の春が連続放火事件の謎を解き明かすというストーリーである。火災現場付近に残されたグラフィティと主人公たちを襲った過去の出来事が複雑に絡み合い、物語をさらに味わい深いものになっている。泉水と春は父親違いの兄弟であるが、それでも、本当の家族としてお互い助け合いながら生きていく姿に家族とは何なのか、血の

コメント [依岡12]: 「抱いて」

コメント [依岡13]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてください

		繋がりとはいかなのかを深く考えさせられる。
伊坂幸太郎	『グラスホッパー』	この物語は、妻を殺され、復讐のために犯人の会社に潜入している鈴木、自ら死を選ぶように仕向ける殺し屋の鯨、ナイフ使いの殺し屋の蟬の 3 人の思惑が重なり合いながら進んでいく。「押し屋」と呼ばれる殺し屋を各々の目的で殺そうとするのだが、その結末は想像をはるかに上回る。また、視点が変わるとに名前の印鑑が押されているので、話が理解しやすいのも特徴だ。誰か一人の視点のみで読み進めていくのも面白い。
井上勝生	開国	通常、開国について扱う場合、ペリー来航から始まり、そこから鎖国体制が終わったことと、自由貿易や尊皇攘夷に関する政争を取り上げることが多い。しかし、この本の特徴は、それら以外にも、開国以前の外国船の来航やそれに対する幕府の対応や、海外の情報を掴んだ蘭学者たちの意見も取り上げられている。さらに、当時の日本を訪れた外国人の視点から書かれた資料を扱うなど、開国を複数の視点から多角的に捉えた本である。
井上由美子	昼顔 平日午後 3 時の恋人たち	元々不倫に対する大反対の紗和は高校先生北野先生と出会って不倫をしてしまい、禁断の渦に落ちてしまう。幸せを求めているのに、最後逆に不幸せになってしまう。北野先生も普通の生活に戻って、でも幸せにならなかつた!もう一人の利佳子も浮気しまくって、家族の全員も知っているのに、最後家族と何もないフリして生活する。表はそれぞれかもしれない、全員幸せになったと言わない。
磯田道史	日本史の内幕 戦国女性の素顔から幕末・近代の謎まで	今までの授業で学んだ歴史のさらにその先について知ることができる。また、豊臣秀頼は豊臣秀吉の実の息子ではなかったなど側から見れば都市伝説のような説も解説されている。歴史の授業では詳しく触れられなかった歴史の裏側を知ることができる。歴史好きな人もそうでない人も歴史に対する興味をそそられる一冊だと思う。ぜひ、この一冊を手に取り、歴史のロマンを感じて欲しい。
印南 一路	人生が輝く選択力 意思決定入門	本書は意思決定について指南してくれる。学生と教授の対話方式。本書がメインで挙げている方法を一部紹介しよう。総合評価法である。複数のものから一つを選択する際、一般には優先順位の要素で選んでいくがこの方法は違う。優先順位ではなくウエイトを決めるのだ。各要素を絶対評価した後、要素のウエイトを掛け合わせて点数を合計させる。他にも画期的な方法が紹介されている。生協に置いてあるので一読するべし。

コメント [依岡14]: 「この本の特徴は」という主語に合わせて文末は「…取り上げられていることである」とする。

コメント [依岡15]: 「求めている」

コメント [依岡16]: 「知っている」

コメント [依岡17]: 「…対話形式で書かれている」

宇沢弘文	自動車の社会的費用	現代、自動車は近代機械文明の象徴であるため、世の中にはたくさん自動車で溢れている。そのため、自動車による公害が発生している。また、近年では交通の便利化により交通事故が多発している。それだけでなく、自動車事故で死亡した人への補償の計算は、生存した場合の所得から計算されるが、人の命は経済価値だけで収支が合うものなのか。市民の基本的権利獲得を目指す立場から自動車の社会的費用を具体的に算出し、あるべき都市交通の姿を示唆している本である。
宇沢弘文	自動車の社会的費用	この本は、自動車の良い面と悪い面の両方から、都市の自動車交通のあり方を述べている。筆者は海外からの帰国後、日本の自動車の運転の荒さに驚いた。しかし実際に日本で生活している人々は、常に車を意識して道路を歩いていたり、車によって通行を妨げられていることなどが当たり前のように感じていても不思議ではない。筆者はそこに着目し、自動車の社会的費用をどのように考えたらよいか、ということについて意見を述べている。
越谷オサム	陽だまりの彼女	十年ぶりに再会した初恋の彼女はできる美人へと変貌を遂げており、主人公はそんな彼女と結婚をする。でも彼女には秘密があって…。ここまで書くと凡庸な恋愛小説だが、この本はそんなつまらないものではない。なぜなら、読んだ人はもれなく「恋したい!」と思える本だからだ。まず、恋愛の心理描写が繊細でリアルだ。それも、主人公たちの中学時代の初々しい気まずさ、社会人になって再開した時の高揚感、つきあってからの甘い雰囲気。どれをとってもリアルだ。たとえ恋愛経験のない人が読んでも、好きな人、彼氏彼女といるときの嬉しさや恥じらいが伝わってくる。ラストの結末の切なさは、前半の甘さとのギャップが感じられる。それが、物語をただの「惚気小説」にさせないスパイスとなっている。ぜひ、この小説を読んで、恋をしている際の自分の、相手の、体温まで感じさせる感覚に浸ってほしい。
塩田清二	〈香り〉はなぜ脳に効くのか アロマセラピーと先端医療	当著書は、「香り」が持つ人間への効力を、歴史的な面やメディカルアロマセラピーの観点から解説している。「香り」は紀元前 3000 年前から香料として、紀元前から医療薬品として存在している。このように人間の脳と密接に関わっている「香り」は、確実な治療法が確立されていない認知症、アルツハイマー型認知症等の病気の予防・改善に大きな作用をもたらすことが分かってきており、当著書ではそれらを詳しく解説している。
横井康行	「のび太」という生き方	「ドラえもん」の登場人物であるのび太は、勉強もスポーツもダメダメで、ドラえもんの道具に頼りっきりというイメージを読者から持たれているだろう。しかし何故、誰からも愛され、映画などで仲間のピンチを助けるヒーローとなり、そして将来はクラスのマドンナであるしずかちゃんと結婚することが出来たのか。著

コメント [依岡18]: 「～たり」は単独では使いません。「～たり、～たり…」とします。

		者は、「ドラえもん」の物語を分析し、その秘密を紐解いている。のび太への見る目が180度変わる1冊。
横石 知二	そうだ、葉っぱを売ろう! 過疎の町、どん底からの再生	これは、紅葉や山菜などを販売する「葉っぱビジネス」を考案した横石 知二さんによって書かれた本である。このビジネスが行われている徳島県上勝町は、県内で特に高齢化と過疎化が進む地域であるにも関わらず、売上高が2億6000万円ものビジネスを高齢者が支えている。高齢者は自分の仕事に誇りを持ち、生き生きとした生活を送っている。このような大きなビジネスを作り上げた著者の奮闘記である。
荻原規子	RDD レッドデータガール はじめてのお使い	世界遺産に認定された玉倉山にある、玉倉神社に住む地味で大人しい泉水子と幼馴染の深行が高校進学を地元ではなく、東京の高校に入学するように決められてしまう。最初は互いに反発する二人だったが、修学旅行先で、「姫神」と呼ばれる謎の存在が現れ、事件が起こる。泉水子を取り巻く一族の秘密も気になるが、今後の二人の関係がどう変化していくかも見ものだ。中学生の少女が高校進学をし、変わっていかうとする姿にとっても共感できる作品だ。
夏川草介	神様のカルテ	主人公の栗原一止は信州にある「24時間、365日対応」の本庄病院で働く、感情を表に出すことが苦手で作家の夏目漱石を敬愛してやまない29歳の医師である。ある日一止は母校の信濃大学医局から声がかかり、大学病院で最先端の医療を学ぶか、そのまま本庄病院に残るかの選択に迫られる。一止は大学病院では受け入れられない末期のがん患者安曇さんと向き合い、安曇さんからの思いがけない贈り物により、一止は考えを決める。
夏目漱石	こころ	私、先生、奥さん、Kが主な登場人物で、上・中・下の3つの章に分かれている。私と先生の出会いから始まり、私が先生に惹かれ2人は交流を始める。父親の病気のため帰郷した私に先生は自分の過去を記した手紙を送る。そこには、叔父に裏切られたことをきっかけに故郷と縁が切れたこと、大学時代の親友であったKの自殺は自分のせいだということなどが長々とつづられていた。この本は人間の本質を感じさせられる作品である。
夏目漱石	こころ	書生である「私」が「先生」と出会うところから始まる物語。先生と親しくなっていくうちに、私は先生が何らかの過去を抱えていることを知る。先生は時機が来たら話すと言う。父の病気で先生を訪ねられないでいると、私のもとへ先生の遺書が届く。そこには、私の知りたがっていた先生の過去が語られていた。夏目漱石の名作と呼ばれるもののうちのひとつ。書店と図書館のどちらでも手に入れやすい。

コメント [依岡19]: あらすじだけではなく、読みどころもかいてほしい。

夏目漱石	こころ	親友を裏切り、愛する女性を手に入れた主人公は、その裏切り行為によって自殺してしまった親友への罪悪感に苦しみ、愛する女性を手に入れた幸せにこころ馳せるよりも、罪悪感に耐えかねた主人公は自殺の道を選んでしまう。愛する女性を選んだが故の親友の死という悲劇。親友の死から主人公の死までの期間で、自分は悪くない、いや自分のせいで親友が死んだのだ、と様々な葛藤をする。こころの動きを鮮明に描いた作品である。
灰谷健次郎	兎の眼	主人公の小谷先生とそのクラスの鉄三という男の子や、彼の住んでいるごみ処理場と学校の地域のお話。学校教育についてやから、地域の在り方、また男女のジェンダー的な問題までこの本では取り上げられている。主に教育についてのことが多く、時代の違いもあるだろうが、生徒と向き合うことについての現実的な部分も描写されているので、小学生教員を目指している人には特におすすめしたい。
芥川龍之介	蜘蛛の糸	池の淵を歩いていたお釈迦様が池を覗いた時、丁度罪人の犍陀多が見えた。犍陀多は以前 1 匹の蜘蛛を助けた過去があり、お釈迦様は蜘蛛を垂らし犍陀多を助けようとした。犍陀多は蜘蛛に気づき糸を登るが、自分の後に続く多くの罪人に登るなと言った瞬間、糸が切れ底に地落ちていった。それを見たお釈迦様は浅ましく思い、またお歩きになった。話自体は短く読みやすいが、犍陀多から人間の欲深さ、自業自得の恐ろしさを知る作品である。
芥川龍之介	芥川龍之介全集 5	『芥川龍之介全集』中の『桃太郎』は、大抵の人がよく知っている昔話の『桃太郎』を題材にした物語である。ただ、芥川の『桃太郎』では鬼と桃太郎の性質が、昔話で書かれているような「鬼が悪、桃太郎(人間側)は善で正義」というものではない。むしろ、桃太郎側の方が計算高く、醜悪な性格で、別の言い方をすれば「人間らしい性質」を有している。人間が書く物語で、「人間」の醜い部分の性質が端的に書かれている面白い話だ。
外山滋比古	思考の整理学	「思考の整理学」は、思考方法から、思考の記録方法、思考の時間、発想の仕方など、思考の整理について書かれている。これを読むと、自分の普段の思考が 180 度変わる。高校までは「このようにしなさい」と指示を受けて行ってきたが、大学生はレポートを書くときなど自分の興味関心に応じて思考しなければならない。自由に思考する練習をする大学生の時にこそ、この「思考の整理学」を読んで思考の技術を身につけて欲しい。
樺木宏	幸せになりたければ ねこと暮らさない	この本は猫を飼っている人、興味がある人にお勧めしたい。全ページ読まなくても、気になるところだけ読めばいいと著者も述べている。猫と人間は大昔からともに暮らしていた説があり、人間にとって欠かせない存在である。猫との向き合い方として、例えば、猫がしっぽをぶんぶんさせている時は不快感を表し、のどを

		ゴロゴロさせている時は喜びを表しているなど、意識して初めて猫ときちんと向き合える本だ。
貴志祐介	悪の教典	高校のカリスマ英語教師で生徒からも人望のあつひハスミン。しかし彼の周りには不審死が相次いでいた。そんなハスミンの本性を暴こうと奮闘するも関わる人が次々と死んでいく。クライマックスは文化祭の準備期間での出来事。学校に不審者が入ったと放送が入り、ハスミンの指示通り生徒たちは屋上に避難しようとする。しかし、屋上の扉は開かない。立ち往生する生徒に銃声の音、そして足跡が近づいてゆく。 そこに現れた人物とは。
吉野敬介	今、頑張れないヤツは一生頑張れない。	表紙は青を背に堂々と白で書かれた、「今、頑張れないヤツは一生頑張れない。」。筆者は、中学校から暴走族の経験を持つ。高校卒業後の20歳、失恋を機に、試験まで残り4カ月の中、大学受験を決意する。この本には、吉野先生が受験で自身を奮い立たせた言葉100が、先生のアツい口調でまとめられている。人は皆、迷い、悩むものだ。そんな時、つらい経験を乗り越えた経験者が語る「言葉」は、解決の1つの手がかりになるだろう。
宮下奈都	羊と鋼の森	「森の匂いがした。秋の、夜に近い時間の森。」2016年に第13回本屋大賞に選ばれ、2018年6月には実写映画化も公開予定の話題作である。高校二年生の主人公・外村が偶然出会った調律師・板島。彼が作るピアノの音色に魅了され、外村は調律師を目指す。ピアノが弾けるわけでも、音感がいいわけでもない。目の前に鬱蒼と茂った暗い森をひたすらに歩んでゆく。それぞれのピアノに込められた想い、葛藤、出会い、別れ。羊と鋼に張り巡らされた森の先で立ち上る匂いを、作者の繊細な美しい描写で味わってほしい。
宮西達也	おまえうまそうだな	ある日、食物連鎖の頂点に立つティラノサウルスは卵から孵ったばかりのアンキロサウルスの赤ちゃんを見つけます。当然「おまえうまそうだな」と見つけたばかりのアンキロサウルスの赤ちゃんを食べようとするティラノサウルス。しかし、赤ちゃんはそんなティラノサウルスをお父さんだと思ひ込み、更には自分の名前はウマソウだと勘違いします。 こうしてティラノサウルスとウマソウとの奇妙な親子生活が始まったのでした。
宮沢賢治	『春と修羅:心象スケッチ』	この作品は、例えば重厚感のあり荘厳な手の北原白秋著『邪宗門』とは違い、軽妙であり色彩豊かな手で仕上がっています。只、この作品の内に込められたものを慮ると、やはり深い内省の跡が見て取れます。また、彼が仏教に対する深い理解を有していたことを踏まえると、作品に度々現れる それ に気付き、彼の思想観を見出せます。同時代の他の詩集とは一線を画すように見えながら、深いところでは繋がっているととても面白い作品です。

コメント [依岡20]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

コメント [依岡21]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

コメント [依岡22]: 「それ」とは？

牛窪恵	恋愛しない若者たち コンビニ化する性と コスバ化する結婚	現代の若者は、恋愛をしたがらない傾向が強くなる。それは恋愛ゲームなどの 2D の世界が発達したため、現実の世界の恋愛が重いと感じたり、裏切られることへの強い恐怖心があるからである。また、恋人とデートをする際にお金がかかるため面倒くさい、という考えもある。このような日本の若者の恋愛への関心の薄さの現状をデータも交えて書かれた本であり、20 代を間近に控えた私たち大学生にとっては読んでおくべき一冊である。
見田宗介	現代社会の理論—情報・消費化社会の現在と未来—	現代社会を特色づけている、「ゆたかな」社会、消費社会、管理社会、脱産業化社会、情報化社会がどのように関連し、前提し合い、補強し合っているのか。また環境問題、公害問題、貧困問題が社会の構造上の問題であることが述べられている。現代社会の「光」と「闇」の巨大をふまえた上で、理論としての統合と、実践としての矛盾の克服の方向を探求するという順序で書かれており、これからの社会について考えさせられる本である。
向田邦子	隣の女	この本は、5 編が収録された短編集である。5 編の中で、私が 1 番印象に残った作品は、「春が来た」である。主人公の直子は風見と恋人関係である。直子の実家は貧乏であるが、風見に嘘をつき、家は綺麗で金持ちだと見栄を張っている。だが、風見が実家を訪れてしまい、ばれてしまう。風見は直子が嘘をついていたことを気にせず、直子の家に通い続ける。風見の訪れによって、直子の家族は次第に春が来たように明るくなっていく。
江戸川乱歩	『人間椅子・江戸川乱歩ベストセレクション1』	江戸川乱歩の短編小説のうち 8 作品が収録されている。本書のタイトルでもある「人間椅子」は、作家である女性の元に、ある日男から手紙が届く。手紙の内容は、男のこれまでの所業の告白であり、女性は気味悪く思いながらも好奇心から読み進めていくが、その告白の内容に恐怖を覚え、狼狽える。他、人間の欲望や裏切りをテーマとした物語、不可思議な現象を描いた作品など、怪奇小説、幻想小説が収録されている。
江國香織	神様のボート	必ず戻ってくると言った男性の言葉を信じ待ち続けながら各地を転々としている親子の物語。子供視点、母親視点の両方が描かれていて、子供が成長するにしたがって物事に対し感じるものが少しずつ変化していく様がとても面白い。そして江國香織さん特有の恋愛に溺れてしまった人の心情や行動の描き方がとても素敵であり、母親は狂気的であるが、自分もこんな恋愛をしてみたいと思ってしまうような文体が物語の魅力を実際立させている。
佐藤俊樹	不平等社会日本	この本の冒頭からお嬢様の定義についてかかれています。—イギリスなどでは—貴族と平民で身分が分かれています—。他方、日本では—あまり—お嬢様について意識することが—ないがやはり区別は存在する。また中盤にかけては、今の社会は努力でなんとかなる社会になったのかそれともそうでなくなったのか、父親の収入

コメント [依岡23]: 「たり」は単独では使わない。

コメント [依岡24]: 「—」音引きではなく「—」ハイフン。

コメント [依岡25]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

コメント [依岡26]: この文は不必要なスペースが多々ありますので、注意を！

		は子供の収入に影響を及ぼすのか、日本の職業は開かれたものになったのかについて資料をもとに詳しく書かれています。
佐藤多佳子	一瞬の風になれ	主人公の神谷新二が幼馴染の蓮の走る姿に憧れて、高校では陸上を始める。しかし、蓮の圧倒的な才能を目の当たりにして信二は嫉妬したりするも、蓮に追いつけるように努力を続ける信二の姿に心打たれる話です。他にも、仲間との関わりで気になる場面がたくさんあるので読みだすと止まらない話になっています。
三浦しをん	風が強く吹いている	本書は竹青荘という大学の寮生の10人が箱根駅伝を走ることを目標として努力する話。中には陸上未経験者もあり最初は無謀に思えたこともページが進むうちにだんだん現実味を帯びていく。また走りは誰よりも速いけど走ることに對して迷いを隠せない走を中心とした人間模様も楽しめる。659ページと少し分量は多いが疾走感があり読みやすい。また読み終わった後に大きな充足感があり自分も頑張りたいと思える。
三浦しをん	まほろ駅前多田便利軒	多田の便利軒としての平凡な毎日は、行天の居候を機に大きく変わる。ヤクザの星さん、小学生の由良公、娼婦のルル...さまざまな登場人物が多田と関係を持つようになる。困っている人を見かけるとほっておけない多田と、一見ぶっきらぼうだけど実は他人思いの行天。2人にしか織りなせないドタバタ日常劇。読んだ後に頬がふっと緩んでしまう、そんな物語。
三谷幸喜	清須会議	1582年に実際にあった清州会議が元となっている。清州会議とは、信長亡き後に起こった織田家の後継者を決める会議である。三男の信孝を推す柴田勝家一派と、次男の信雄を推す羽柴秀吉一派に分かれ、それぞれ、さまざまな登場人物を巻き込みながら工夫を凝らし、会議という名の戦いを勝ち抜いていく。モノローグ形式で語られ、見出し語には時間が詳しく書かれており臨場感たっぷりです読み進めることができる作品である。
山浦晴男	地域再生入門「寄りあいワークショップ」の力	この本で、著者は地域再生のためには行政任せではなく、住民こそが地域の暮らしの専門家であり、その暮らしの現場にこそ答えがあるとしている。そのうえで地域住民が内発的に立ちあがることの重要性を論じている。そして、その鍵となるのが住民・行政・NPOの連携・協働の仕組みを理解した上での住民のワークショップである。「寄りあいワークショップ」の技法を開発した著者が、各地での数多くの成功例を紹介している。
山崎拓巳	やる気のスイッチ!	本書は、題名の通り、「やる気の出し方」を書いている本だ。これは、プロローグとエピソード、34の章からなるエッセイで、授業やサークルでうまくいかないとき、なんとなくやる気が出ないときに読んでほしい一冊だ。1つの章で完結するので、全部読まなくても、1章だけでも読めば効果がある。普段から実践できる簡単なことばかりなので、試してほしい。附属図書館にもあるが、

コメント [依問27]: 体言止めを多用すると、かえって単調になりますね。

コメント [依問28]: 「一」音引きではなく「一」ハイフン。

コメント [依問29]: たとえば、どんなことでしょうか？

		ぜひ購入して手元に置いておきたい本である。
山田悠介	名のないシシヤ	人間の子供のような姿をし、人の死ぬまでの時間が見える使者という存在。彼らには三年分の時間が与えられていて、これを人に分け与えられるが、時間を使い切ると消滅してしまう。世の中に飽きた彼ら4人と彼らそれぞれにとって大切だと思える人間に出会ったことで使者にも変化が訪れる。しかし幸せな日々も長くは続かず、大切な人たちの運命が変わってしまう事件が起こる。シシヤたちの最期の決断と切ない別れが心に刺さる1冊。
山田悠介	麒麟	天才精子バンクで生まれた麒麟はノーベル賞受賞者の遺伝子を、兄の秀才は天才数学者の遺伝子を受け継いだ。「パーフェクトベイビー」を期待する母親の教育を受け、秀才は天才的な頭脳を發揮し、麒麟は秀才以上に母親を満足させるような成長を見せた。しかし、突然麒麟の背中にシミができると同時に成長が停止。その後、「失敗作」の子供を集めた天才養成学校に捨てられる。家族の絆を信じ続ける麒麟に残酷な運命が突き付けられる。
山田悠介	名のないシシヤ	この本は人の死ぬまでの時間がかかる名前のない少年が玖美という少女に出会い、テクという名前をもらい、悲しみや喜びなどの感情を身に付けていくという話だ。しかし成長する玖美と成長しないテクには避けられない別れが待っている。テクが玖美と出会ってから、様々な人と関わり、命の大切さを知っていく。人の優しさに触れ、人の大切さを改めて感じることができる話だ。
住野よる	君の膵臓をたべたい	この本を進める理由は3つある。1つ目はタイトルだ。とても衝撃的なタイトルで、最初は戸惑うと思うが、読後は本当にタイトルを読んで涙が止まらなくなる。2つ目は主人公の男の子の名前が最後まで明かされないことだ。私は、この本を読んで自分がした男の子のイメージと、最後に明かされる名前があまりにもあっていて、そこでもたくさん涙を流した。3つ目は周りにいる友達や親の存在に感謝するようになることだ。どれだけ人との関わりが大切で、一日一日がどれほど重要なのかをよく教えられた。
住野よる	君の膵臓をたべたい	ある日、クラスでもあまり目立たない主人公が、病院で落ちていた日記帳を見てしまう。それがクラスメイトの山内桜良の日記であると知る。その日記がきっかけで彼女が膵臓の病気で余命一年だということを知り、クラス内で正反対の性格である二人が、お互いから様々なことを学んでいく。しかし、ある日彼女は通り魔に殺されてしまう。そして、主人公が彼女の日記を見て号泣するという衝撃的な結末。
住野よる	君の膵臓をたべたい	この本の主人公は他人と関わりを持とうとしない控えめな男子高校生と、膵臓に不治の病を抱える明るい性格の女子高生である。とあることがきっかけで彼は彼女の病気の秘密を知ることになる。彼女の自由奔放な行動に振り回されながらも彼は彼女の魅力

コメント [依岡30]: 「彼らはこれを人に分け与える」か？

コメント [依岡31]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

コメント [依岡32]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

		に惹かれていく。そしてラストは泣ける。ただ悲しいとかそんな単純な理由ではない。散りばめられた数々の伏線を回収しきれずに迎えるエンドに分かる「君の臍臓をたべたい」の意味。
重松清	きみの友だち	足の不自由な恵美ちゃんと病気がちな由香ちゃんは、ある事件がきっかけで、だれとも付き合わなくなった。勉強もスポーツも抜群でライバル同士だったブンちゃんとモトくんは、あることがきっかけでチグハグになった。それでも、衝撃や痛みや喪失を乗り越えて輝く、友だちという関係を描き、「友だち」の本当の意味をさがす、心温まる作品。
初野晴	退出ゲーム	高校一年生で幼馴染のハルタとチカは弱小吹奏楽部に所属しており、吹奏楽の甲子園である普門館を目指しながら、毎日部員集めに奮闘している。部員集めをしていく中で二人は学校で起こる様々な謎を解決しなければならなくなる。真っ白いルービックキューブの謎や盗まれた結晶の謎など、日常生活に近い謎から社会問題と関連する謎まで、頭脳派のハルタと行動派のチカが周りを巻き込みながら織りなす青春ミステリー。
小川糸	あつあつを召し上げ	7つの話から成る短編集の本。登場人物は7つとも異なるが、どれも食べ物キーワードとなっている。ただ生きるために食事をして幸せだと感じるだけでなく、食事の先に待つ別れや死までもが浮かぶ物語となっているので泣かせにかかっている。大切な人と一緒に食べたものはずっと記憶に残る。だから、誰かと食べる食事を当たり前と思わず大切にしてほしい。そのようなメッセージを受け取るあたたかい本となっている。
小川洋子	『不時着する流星たち』	本書は10篇から成る短編集である。本書の短編にはそれぞれモチーフがあり、一篇ごとに、最後のページでモチーフが紹介されるという形式になっている。例えば、第3話の『カタツムリの結婚式』は作家パトリシア・ハイスミスのかたつむり好きのエピソードが、第9話『さあ、いい子だ、おいで』は世界最長のホットドッグがモチーフである。どの話も優しく美しい世界観でありながら、魅力的な気持ち悪さ、奇妙さがある。
小林雅一	AIが人間を殺す日	「車、医療、兵器が人間に与える影響とは」を明らかにしている本である。人間を殺すと一概には言っても、AIが人間に判断を下した結果、それが問題となって人間が死にさらされるというものである。特に、医療の場面は必見である。医者との関係、この関係性が崩れてしまうとどうなるのか、私たちはどう巻き込まれていくのだろうか。この本を読むとそれが明らかに「なります」。私たちはAIについて詳しく知らなければならない。
松香洋子	アメリカの子供が「英語を覚える」101の法則	日本人は英語の発音を苦手とする。その苦手を解消するためにこの本では「フォニックス」という学習法を紹介している。「フォニックス」とは英語の音声を通して、英語の読み、書きを学ぶこと

コメント [依岡33]: 「ラスト」で泣ける理由なのではないでしょうか？

コメント [依岡34]: 「泣かせようとしている」ということ？

コメント [依岡35]: 「です・ます」調と「だ・である」調を混ぜない。

		であり、耳や口、手も使って偏らない学習を進めることが出来る。101 個の法則には一つ一つの形や舌の使い方が細かく書かれてあって分かりやすい。英語を苦手とする人にはぜひ英語の音声から学習してもらい、苦手を克服してもらいたい。
城戸久枝	あの戦争から遠く離れて	この本は徳島大学総合科学部卒業生が書いた本であり、中国残留孤児である父の幹さんの自伝を娘である筆者が文章にまとめた本である。幹さんは日本鬼子とからかわれたり、履歴書に日本民族であると書いたりしたせいで二度も大学受験に失敗したりしたなど中国での生活は苦しかったことが記されていた。戦争が終わっても苦しんでいる人が多くいることを改めて実感でき、二度と戦争を起こしてはならないと決意させてくれる本である。
植西 聡	逆境力のコツ	この本は、心が折れて自分に自信が持てなくなった時に、自分を支えてくれる一冊です。特に私は、「逆境を経験することが、その人を人間的に成長させる」という言葉に感銘を受けました。「苦しい経験は、自分の人生にとって有意義である。」そのように考えられるようになったのは、この本のおかげです。この本には他にも自分を高めてくれる 92 の言葉が掲載されているので、きっと自分の励ましになる言葉が発見できるでしょう。
森 絵都	Colorful	「おめでとうございます。抽選に当たりました!」とある天使のセリフから始まる物語。このセリフは、ある理由で自殺をしてしまった中学生のぼくの魂が、同じく自殺をしてしまった小林真の体に入り現世で人生をやり直す、という抽選に当たったという意味である。ところがこの小林真の人生も決して楽なものでは無かった。父親は職を失い、母親は不倫という、家庭内事情が最悪なところであった。ぼくや小林真は中学生という設定であり、思春期を迎え、家族、人間関係、恋愛など様々な場面で複雑な心情をもつ難しい時期である。一見重たい話に聞こえるが、人間は黒い部分だけでなく、カラフルな部分もあるということを明るく描いている。
森見登美彦	新釈走れメロス 他四編	この本は、今を時めく小説家である森見登美彦氏が、中島敦の「山月記」や太宰治の「走れメロス」ほか三篇の、名だたる文豪たちの遺した名作を勝手に現代風に蘇らせた作品である。具体的に例を挙げれば、李徴と袁傜の対比が印象的な「山月記」は、最高の矜持をもちながら、創作活動のために大学に居座り続ける斎藤と、斎藤の後輩であり、現在は警察官の夏目という二人に置き換えられてしまう。是非読んでみてほしい。

森見登美彦	夜は短し歩けよ乙女	主人公の「先輩」が偶然を装い会いに行く「黒髪の乙女」への片想いを描く恋愛物語です。友達に貸してしまったため手元に本が無いのですが、覚えている範囲で書きます。物語の全ては先輩視点、黒髪の乙女視点と交互に変わります。舞台は京都だと予想されますが、会話と語りは全て標準語となっています。登場人物は全て変わり者で話がどう進むのなかなかよめません。同じように比喩表現も独特で、想像力が掻き立てられます。
森見登美彦	四畳半神話大系	主人公・「私」は冴えない大学三回生である。一回生のころに想像していた「バラ色のキャンパスライフ」とは程遠い大学生活を送っていた。悪友の小津や、謎の多い樋口師匠に振り回され、黒髪の乙女の明石さんにはなかなかお近づきにはなれない。うまくいかない人生で、「もしあのとき、ほかの道を選んでいれば」と考える「私」の、「もし」の大学生活が四つ描かれる。
森見登美彦	四畳半神話大系	本書は自分の学生生活に納得がいけない主人公が毎日身を粉にしてしょうもないことに打ち込むという話である。もし彼が〜のサークルに入っていれば、というようなifストーリーが4本収録されているがどこを選んでも彼の理想とは反してアホな学生生活をおくことに変わりはない。本書からは今の学生生活を勉強もして恋愛もしてアホなこともして精一杯楽しんで欲しいという筆者の意思が伝わってくる。
森見登美彦	有頂天家族	この本の主人公は人間に化け、人間社会に溶け込んで生活している狸である。物語の中で主人公は実の父親を狸鍋にした人物と関わり、父親の覚悟と狸としての誇りを耳にする。主人公が愉快的登場人物たちに囲まれながら、一族のため立派だった父の後を継ぐのか、今まで通り自分らしく生きていくのかという葛藤の中で答えを探していく物語である。
森見登美彦	有頂天家族	この本は、京都を舞台とした人間と狸と天狗が共存する世界で、個性豊かな下鴨五兄弟や天狗の赤玉先生、敵の狸、そして金曜倶楽部が繰り広げるファンタジーミステリーだ。主人公の矢三郎は狸の名門下鴨家の三男坊だ。矢三郎は毎週金曜日に狸鍋を食べる人間の集まり、金曜倶楽部に父総一郎を狸鍋にして殺された過去がある。矢三郎は人間に化け、父の死を探りながらも、金曜倶楽部のメンバーと次第に打ち解けていく。
神田裕行	日本料理の贅沢	徳島県出身の料理人による日本料理の紹介の本。日本料理にはレシピがない。食材のとれた季節や大きさなどによって1つ1つレシピが異なる。また、日本料理の料理人はただ単に料理を作ればよい訳ではない。お客さんのお酒を飲むスピードや食べる量などによって臨機応変に料理を作り、対応しなければならない。料理だけでなく、器やお椀にもこだわりが必要である。料理人の素養と見識が出るお椀には人を感動させる力があるのだ。

コメント [依岡36]: この断り書きは不要。
。

コメント [依岡37]: 「仮定のストーリー」？

コメント [依岡38]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

コメント [依岡39]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

人見 ルミ	心を整えるマインドフルネス CD ブック	マインドフルネスとは心と体の疲れの元となる雑念を取り除き、自分が自分でいられるため方法である。この本は、それを行うことでどういった効果や変化があるのかを具体例を用いて示している。ビジネス、人間関係、人生などにおいて「なんだかうまくいかない。」「ストレスが溜まってきた。」と感じるときこの本を手にとれば、疲れを取り本来の自分を取り戻し、可能性を伸ばすことにつなぐことができる。
水野敬也	雨の日も、晴れ男	2人の神シュナ、ワンダーが主人公の男アレックスに意地悪で不幸な出来事を次々と起こしていきます。けれどもアレックスはそれをプラスに変換し、常に人を楽しませ、前向きに生きていました。そのうちに2人の神達もそんなアレックスに対して罪悪感が生まれてきて彼を救おうと動き出していくというストーリーです。この本は、色んな出来事に対する発想転換の重要性や考え方について改めて考えさせてくれる素敵な本です!
是枝祐和	そして父になる	この本は6年間育ててきた息子が、実は血の繋がっていない息子だったことを知らされた両親が、血の繋がりがある息子を育てるか、このまま血が繋がらない息子を育てるか、葛藤する。その中で家族の絆という大切なものを見つけていくという物語である。血の繋がりが全てではないということを教えてくれる、心温まる作品である。
是枝祐和 佐野晶	『そして父になる』	この物語はひとりの男が父になるまでの過程である。この作品の主人公である良多は大企業の上層部で働いているエリートサラリーマンである。彼には6歳になる息子がいるが多忙のため、6年間子供とあまり向き合うことがなかった。そんなある日、彼は自分の息子が病院で取り違えられた子供であることが判明する。血か、共に過ごした時間か。二つの家族に突きつけられた究極の選択の過庭の中で良多は家族とは何かを考えていく。
星新一	たくさんのタブー	星新一氏によるSS集。十ページほどの一話完結の話が二十話収録されている。どの話も短く、設定も分かりやすく入っていきやすいものとなっており、空き時間に読みやすい。思わずうなるような結末を迎えるものもいくつもあって読みごたえも中々あるものとなっている。出版年が四十年以上前ではあるが、星新一氏の創作のポリシーに"なるべく時事ネタは扱わない"というがあるので今の人が読んでも事前知識なしで十分楽しめる。
西加奈子	サラバ!上	主人公の歩は、イランで生まれた帰国子女である。母よりも女であることを優先する母やその母に反抗し猟奇的な姉に振り回される歩は、自分を消す術を身につけていく。エジプトで過ごした小学校時代、帰国し恵まれた容姿であることを自覚しモテた中学校・高校時代、一貫して順風満帆な生活を送る歩だったが、どこかひねくれた考え方をする自分に嫌悪感を抱く。続く下巻では、

コメント [依岡40]: 「…ための方法」

コメント [依岡41]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

		歩がだんだんと落ちぶれてしまう様子が描かれている。
青山ゆみこ	人生最後のご馳走	淀川キリスト教病院ホスピスでの「リクエスト食」についての本である。「リクエスト食」とは、患者一人一人が自分の食べたいものをリクエストし、食べることができるものだ。料亭で腕を磨いたことのある調理師と栄養士が協力し、患者が食べたかった通りの「思い出の味」を再現してゆく。13人の患者のリクエスト食とそれにまつわる思い出が書かれており、それぞれの食を通して患者の想い、人生、人柄まで伺うことができる。
折原一	異人たちの館	売れない作家が1人の青年の伝記を書くために調べるうちに、その家の異様さに徐々に気づいたり謎の異人と遭遇したりと、どんどん謎が深まるけど、終盤で全ての伏線や謎が回収されて終わる気持ちの良いストーリーとなっています。母親に遭難して死んだと思われている青年が遭難している時の回想を、少しずつ挟みながら物語が進むため、最後まで読まないで青年が本当に死んでいるのか分からないという構成が私には斬新でとても引き込まれました。
前川知大	散歩する侵略者	真治と鳴海の夫婦は不仲だった。そんな時に夫の真治が行方不明になり、数日後に素直で穏やかになって帰ってきた。妻の鳴海は戸惑っていた。更に真治は毎日散歩に出かけるという不思議な行動をする。同じ頃町では一家殺人事件が起こる。これを機に町は不気味に豹変していく。そして鳴海は真治から「地球を侵略してきた」と告げられた。ここからジャーナリストの桜井も巻き込まれ、当たり前の日常が変化していく。という話である。
前田正子	保育園問題	毎年2万人以上の待機児童が生まれる日本で、なぜ保育園が増えても待機児童は減らないのか。なぜ保育士のなり手が少ないのか。現代を取り巻く様々な保育園問題をあらゆる面から解説し、議論を進めていく。
増田寛也	地方消滅 東京一極集中が招く人口急減	東京に人口が集中するなか、地方では高齢化がすすみ、日本全体の人口減少がより顕著となるという問題に関して人口減少を食い止めるためにどのようにすべきかが主に述べられている。そして人口減少は未来の話ではなくおおくの地方と呼ばれる場所では現在の問題であり、早急に解決すべき問題であるとかかれている。また、地方から東京への人口流出をふせぐために地方中核都市への資源や政策の投入が必要だと筆者は考えている。
村上春樹	ノルウェイの森上、下	主な登場人物は8人で、主人公「僕」の周りで起こる3人の自殺によって生まれる「僕」の心の震えや感動、そして哀しみを描いている。この作品は、「死(自殺)、生(人生)、運命」などを村上さん独特の描き方で描いている。「僕」は親友を亡くし、哀しみにくられていても新たに大切な人を見つけて、頑張っって前を向く姿に感動した。

コメント [依岡42]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

コメント [依岡43]: 「本書は…」と主語を付けた方がいい。

太宰 治	人間失格	この本は、主人公目線で書かれている。主人公は、幼少の頃より変わった子供だった。それに加え、家族からのあまりにひどい対応により、さらに歪んでいく。友人も少なく、人との関りもあまり持たない。大人に成長した後、主人公は、女性関係のもつれや薬物により、自分だけでなく周囲の人も不幸にしてしまう。結果、主人公は一人で死んでしまうという悲しい話だ。この話は、人間の闇に触れた作品であるように感じた。
太宰治	人間失格	人間失格は太宰治の晩年の作品で、主人公は筆者自身である。筆者の実生活を基に作ったもので、人間が怖くて生きるのが不安で仕方のない主人公が、道化になることで人間への最後を求愛行動をしたり、好きになった女性と入水自殺を図るも自分だけが生き残ってしまったり、奥さんが強姦去れているのを見えたりして破滅に至った人間の様子が書かれている。人間の内側にあるどろどろとした感情などを見事に描写している本である。
大山泰生	ネイティブスピーカーになれる唯一の勉強法	この本は英語をペラペラと喋れるようになる具体的な方法を、細かい説明を加えながら書いた本である。英語を喋るためには英語のネットワーク、いわゆる英語脳を作ることを目的とし、単語を暗記、作った英作文を音読するなどを繰り返し練習。一見普通の勉強法に見えるが英単語は1体1で日本語と対応させるのではなく文章として理解するなど、従来の方法とは少し違うものとなっている。筆者は英語学習者としてこの本を書いている。
沢村凜	黄金の王 白銀の王	翠の国では鳳穂と旺夏の二つの部族が内乱を続けていた。当時実権を握っていた鳳穂の頭領、ヒツチは内乱を治めるため、旺夏の当主であるクノエに自らの妹と政略結婚することを打診する。部族間の不和、それぞれの部族内での対立、外国の侵略。二人の王は様々な困難や感情に襲われながら、平和への道を進み続ける。
池井戸潤	ようこそ、わが家へ	ある日、人に注意したことがきっかけで自宅への嫌がらせが始まる。家族は犯人を捕まえようと防犯カメラを設置する。主人公の息子が防犯カメラを使って犯人をおびき出すが、刺されてしまう。だが、一命をとりとめ、犯人も逮捕される。しかし、その犯人は注意した男でなくまた嫌がらせをされるが、防犯カメラに映っていたため真犯人がつかまり、真犯人こそ主人公が注意した男であり、事件は解決する物語。
池井戸潤	オレたち花のバブル組	「バブル時代に入社組」世代の苦悩と闘いを鮮やかに描いている。巨額な損失を出した一族経営の老舗ホテルの再建を押し付けられた、東京中央銀行の半沢直樹の奮闘を描く。ドラマでヒットした「半沢直樹」では描かれなかった続きを小説として描いている。会社内の見えざる敵との闘い、権力に屈しない男達の一発逆転を痛快かつ爽やかに描いており、読んでいて苦にならない小説です。

コメント [依岡44]: どういうこと?

コメント [依岡45]: 「され」

コメント [依岡46]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

コメント [依岡47]: わかりにくい文章ですね。またあらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

コメント [依岡48]: 「です・ます」調と「だ・である」調を混ぜない。

池井戸潤	下町ロケット	昔ロケット開発に関わっていた主人公佃がロケット打ち上げ失敗の責任を取り中小企業の社長として働いている。しかし、佃はロケット開発を諦められず中小企業の厳しい財政の中でロケットの部品を作り続ける。そしてロケットのある部品の特許をとりロケット開発に再び関わられると思った矢先、ある企業がその特許がうちが先に取ったと裁判を起し、窮地に陥ってしまう。佃の夢であるロケットの打ち上げに関わることができるのか。
池田香代子	世界がもし 100 人の村だったら	現在世界の人口は 70 億人です。この 70 億人を 100 人の村に例えて考えたらどうなるのか、という問いかけから始まる本です。この本は私が国際協力について考えるきっかけとなりました。世界の中での男女比、子供の割合、貧困の割合など様々な割合をわかりやすい数字で比較することができます。子供向けの絵本、動画にもなっているので内容的にもとても読みやすく、しかし読み手に訴えかけるものはかなり大きい作品です。
竹内一郎	優柔不断は“得”である～「人生の損益分岐点」の考え方～	私は、優柔不断な性格なのでこの本を見つけた時に興味を持ちました。私の中で優柔不断だと損をすることが多いと思っていました。ですが、この本を読んで、すぐに決めつけてしまわず先延ばしにする生き方もありだと思えました。今のスピード社会の中で、優柔不断は負の側面が強いが、逆に、決めつけない生き方の大切さや勝ち負けにこだわらず状況に合わせてしなやかに生きることの重要さに気づかされる本です。
竹内薫	99.9%は仮説 思い込みで判断しないための考え方	この本では、自分たちが当たり前だと思っている常識や定説が実際には間違っている、または、間違っていると思っていたことが実際にはあっているという可能性がそれぞれあり、それによりこれまでたくさんの失敗や修正をしてきたことを踏まえ、一度、常識や定説、今正しいといわれている論や説というものを疑って、考え直してほしいという内容である。
中村文則	去年の冬、きみと別れ	この本は、あるフリーライターが編集長に頼まれて二人の女性を焼死させた罪で死刑判決を受けた天才カメラマンの起こした事件に迫っていくミステリーである。その事件は不可解なことばかりでフリーライターは苦戦する。また、その事件に入り込んでいくにつれて精神を病んでいく。しかし最後にその事件の謎が分かった時、この記事を書くことをやめたいと編集長に告げるのであった。結末を予想できない、誰もが騙される内容である。
朝井リョウ	桐島、部活やめるってよ	バレーボール部のキャプテンで学校の人気者である桐島が突然部をやめることによって同級生 5 人の生活がどんどん変わっていく。なぜ桐島は部活をやめたのか、5 人はこの後どうなるのか、この本を読むうちにそれがどんどん明かされていくことになる。珍しいオムニバス形式になっており、5 人それぞれが悩みを抱えており、恋愛要素もあってあまり小説を読んだこともない

コメント [依岡49]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

		人でも楽に読める作品となっている。
朝井リョウ	桐島、部活やめるってよ	この本は、バレーボール部のキャプテンである桐島が突然、理由も告げずに部活をやめたところから始まる。内容は、5人の登場人物のそれぞれの視点で展開され、それぞれの生徒は運動部だけでなく、文化部の生徒もいて、部活の中での立ち位置も違っている。その5人の生徒に桐島が部活をやめたことによって、それぞれに変化が起こってくる。高校生活がリアルに書かれているので、自身の高校生活とつながるものを感じ、共感しながら読むことができる本だ。
長谷部 誠	心を整える。 勝利をたぐり寄せるための56の習慣	この本は、サッカー日本代表の長谷部選手が常に意識をしている56の習慣について書かれている本です。「心を整える」というタイトルの通り、この本のキーワードは「心」です。常に安定した心を備えていることで、どんな時でも一定したパフォーマンスができ、自分を見失うことがないそうです。簡単にできることを当たり前にしてきた長谷部選手の本質を知ることができる本です。
長谷部誠	心を整える	この本は、サッカー日本代表、長谷部誠選手が、心をキーワードとして書いた自叙伝である。自分が人生においてどのようなことを心掛けてきたのか、自分の失敗体験から学んだことを生かして現在まで実践していることなどが書かれている。僕が一番印書に残ったのが、キャプテンという仕事をまとめるというより、陰でみんなを支えることで全うしていることだ。自分なりの、キャプテン像を独自に描いているのが面白いと思った。
長尾誠夫	源氏物語人殺し絵巻	実際の源氏物語の内容をベースに、現代語でリメイクされたミステリー小説。原作の源氏物語に書かれている、桐壺や夕顔の死などが残虐に描かれている。現代も昔も変わらない女のどろどろな人間関係もリアルに書かれている。
長友佑都	日本男児	サッカー日本代表の長友佑都選手の幼少時代から今に至るまでの実話を物語る本だ。この本を読むと、大学時代はサッカー部の応援団として太鼓を叩いていたこの男が4年後、日本を背負う選手として活躍できるまでになる理由がわかる。「壁は成長のチャンス。だから壁が好きだ。」と、障害を感じるくらいチャレンジしてきた彼の過去が、読み手に何か大切なものを教えてくれる。本当の「努力」とは何か、考えさせてくれる。
鳥飼玖美子	本物の英語力	この本では発音や文法から、英語の学習法まで多岐にわたって書かれている。映画を用いて語学を学ぶ人は多いが翻訳には意識が多く含まれているので、ヤクザ映画を見て日本語を学んだアメリカ人が、日常ではめったに使われていない日本語を使ってしまい恥をかいたこと。ノーベル賞受賞者の山中伸弥教授が発音の違いをはっきり言い分けられなかったこと。具体的な失敗を例に英語の学習法について述べられている。

コメント [依岡50]: 「みんなをまとめること」

コメント [依岡51]: 「どろどろした」

コメント [依岡52]: 「ことなど、」

直井みずほ	大人の気づかい&マナーサクッとノート	仕事でよくあるさまざまなケースに分けて、わかりやすく書かれている。ケースごとに、気づかいのコツと心がけるポイント、また、よく起きるシチュエーションを具体的に示している。大学を卒業して、就職をしてからはもちろん、これからアルバイトを始める人にとって、知っておかなければならないルール、マナーが書かれており、今の時期に読んでおきたい本である。中身も、カラーと絵を使っていて誰もが読みやすい。
陳舜臣	小説十八史略(一)	この本はあくまで歴史小説であるうえ、十八史略自体が子供向けの歴史抄本であるが、日本人が中国古典に興味を持つための入門書としては十分である。同じアジア圏で日本と通じる箇所があり、また個人的な考えだが、漢字の名前はカタカナの名前よりも覚えやすい(当て字のような名前もたまにあるが)。「背水の陣」や「奇貨居くべし」など、日本でもポピュラーな故事成語の由来も知ることができる。とにかく一度は読んでみてほしい。
辻村深月	冷たい校舎の時は止まる	物語は、ある冬の朝、高校三年生の男女8人が何者かによって校舎に閉じ込められる場面から始まる。誰も登校してこない教室、時が止まった校舎。彼らはこの不可解な状況に、二か月前の学園祭で起きた自殺事件の関与を疑うが、自殺した生徒の名前を思い出すことができない。犯人は自殺した生徒なのか。まるで物語に入り込んで推理しているかのような感覚が味わえます。ぜひ見てください。
田中正敏	ストレスの脳科学:予防のヒントが見えてくる	この本は、ヒトのストレスについて科学的に述べた本である。例えば、田中氏によると、ストレスは個人が頭でどのように認知しているかによって変わる。つまり、ストレスに個人差があるのは、脳の認識の仕方が個人で違うからである。そこで、この本では脳の作りについても図を添えながら具体的に書かれている。このように、ストレスと脳について読みやすく解説されているため、興味のある方にはぜひ読んでいただきたい。
田辺聖子	おちくぼ姫	たくさんの女の子を魅了している西洋の物語で「シンデレラ」がありますが、日本にも千年前にシンデレラのようなお話が書かれていました。それがこの本です。主人公の姫は落ちくぼんだ部屋にいられ、意地悪な継母にいじめられています。そんな彼女をヒーローである少将が救います。さまざまな問題にぶつかりながらも二人は惹かれあっています。シンデレラのようなロマンチックで、ドキドキするお話が読みたい人にぴったりです。
土橋章宏	超高速! 参勤交代	この本は、本のタイトル通り超高速で参勤交代を行うという物語です。時は江戸時代、八代将軍吉宗政権の老中、松平信祝から陸奥国湯長谷藩(現在の福島県いわき市)の殿様である内藤へ押し付けられた「五日以内に江戸へ参勤せよ」という無理難題。達成できなければ厳しい処罰が下る。お金も時間もない中でこのピンチ

		を家臣とともにどうやって切り抜けるのか!?アクション、恋、笑い、なんでもあります。ぜひ、読んでみてください!
東川篤哉	謎解きはディナーの 後で	国立署で刑事として働く主人公、宝生麗子は上司の風祭警部とともに数々の不可解な事件現場に遭遇する。困っていたところを相談した相手は執事の影山。実は麗子は財閥の令嬢なのだ。仕事と推理を完璧にこなす影山だが、麗子には容赦なく、毎話飛び出す暴言にも注目してほしい。短い話が複数収録されているので読みやすく、ページが進むにつれて変化していく麗子と影山の距離感も楽しんでほしい。
東野圭吾	赤い指	東野圭吾が書く本の中では、必ず人が死ぬ。ある複雑な家庭で、殺人事件が発生する。1人の女の子妻が殺し、それを夫が近くの公衆トイレに捨てにいった。警察は、近所で情報収集するため、各家庭をまわるが、やがて、彼らの家にも警察はまわってきた。夫は、子供は自分の母が殺したと警察に報告するが、最終的に、嘘がばれ、夫は自分の母に申し訳ないことをしたと罪を認める。
東野圭吾	パラドックス 13	3月13日13時13分13秒、「R-13」という謎の現象が起きると政府関係者の間で話が進められていた。何が起きるのかは誰にも分からないまま、その時はやって来た。その頃、警察官である久我冬樹は、兄である誠哉と共に強盗犯を捕らえようとしていた。しかし、冬樹のミスにより、誠哉と冬樹は強盗犯に銃で撃たれた。冬樹が目覚めると、そこには撃たれたはずの誠哉がいた。謎の現象とその後の兄弟の運命はいかに。
東野圭吾	変身	画家を目指していて、温厚な性格な青年はある事故に巻き込まれて脳移植の手術を受ける。それ以降から性格が冷淡になり、今まで書いていた絵の描き方も変わっていることを自覚した青年は、自らのドナーの正体を突き詰めていく。「性格が変わっていく自分をどうするべきかわからない」という青年の苦悩と葛藤の心理が細かく描写されていて言動から読み取れる。また青年の周囲の人物の彼への対応の変化も注目すべきである。
東野圭吾	プラチナデータ	この本では DNA を使った犯罪捜査が主流となった日本が舞台となっています。国民の DNA を政府が管理することにより、犯罪件数の減少や犯人逮捕の時短など日本の治安はだんだんと良くなっていきます。しかし DNA 管理の目的はそれだけなのか。他にも政府が隠している真の目的があるのではないかと疑問がページをめくる度に大きくなっていきます。
東野圭吾	容疑者 X の献身	この物語は、主人公で天才物理学者の湯川学が、難事件を解決するガリレオシリーズで、初の映画化作品である。湯川の親友である天才数学者で高校教師の石神が、密かに想いを寄せていた隣人の靖子が犯した殺人をかばうために完全犯罪を企て、それを湯川が解決する話。敵が親友という湯川の心情、好きな人のために罪

コメント [依岡53]: 「麗子には容赦なく毎話浴びせる暴言」?

コメント [依岡54]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

		を被る石神の覚悟など、単に推理小説とは言えない内容であり、読後の虚無感を実際に読まなくては分からない。
東野圭吾	流星の絆	「アリアケ」という洋食店を営む両親の子供である功一、泰輔、静奈はある日の夜、両親にバレずに家を抜け出して流星群を見に行く。その後家に帰ると、両親が何者かによって殺害されていた。養護施設で育てられた3人は大きくなり、時効を迎える前に犯人を見つけようとする。レシピを盗んだ可能性のある戸神政行という男をターゲットにして証拠を掴むために詐欺をするが、本当の犯人は想定外の人であった。
東野圭吾	禁断の魔術	東野圭吾作「禁断の魔術」は、「ガリレオシリーズ」と呼ばれる、連作ミステリーシリーズの第8弾である。全4話の短編からなる、シリーズ初の全作書き下ろし作品。主人公の天才物理学者・湯川学が、友人で刑事の依頼を受け、超常現象とも思える不可解な事件を科学的に解決していく。1章「透視す」は超能力、2章「曲球る」は変化球、3章「念波る」はテレパシー、3章「猛射つ」はレールガンがキーワードとなっている。
東野圭吾	秘密	この本の主な登場人物は、父(平介)母(直子)娘(藻奈美)の3人家族である。ある日、直子と藻奈美の乗った旅行中のバスが崖から転落し直子は死亡、藻奈美も重症を負う。藻奈美は奇跡的に回復し目を覚ますが、中身は死んだはずの直子だった。周りの人間にはその事実を隠して生活を送るが、しばらくすると直子と藻奈美が入り替わるようになる。非現実的な内容だが家族の葛藤がリアルに描かれ感動的なラストを迎える作品である。
東野圭吾	『ナミヤ雑貨店の奇蹟』	児童施設「丸光園」で育った敦也ら三人は悪事を働き、以前人々が悩み相談をすることで知られていた「ナミヤ雑貨店」に逃げ込み、一晚過ごすことになった。シャッターから音が聞こえ、見てみると手紙があり、それは過去から来たものだった。敦也たちは当時の店主・浪矢雄治に代わって返事を書くことにした。いろいろな相談に答えていくなかで「ナミヤ雑貨店」と「丸光園」の繋がりがわかり、敦也たちの心情にも変化が訪れる。
人間人間	僕の小規模な奇跡	この本は「裏切りの作者」とたびたび比喻されている人間人間の著書である。話の最後になると読者の推測を裏切った驚きの結末をもってくるのが特徴の作家だ。この本は短編集であり、短い区切りの話で何度も裏切られる。テーマは青春・恋愛で、様々な登場人物の純情な愛から、すこしほかの人とは違う愛の形などが描かれている。「そんな愛もあるのか」という部分もあれば、共感できる愛もあり、時間を忘れて読める小説である。

コメント [依岡55]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

コメント [依岡56]: もう少し読みどころを書いてほしい。

コメント [依岡57]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

波多野ミキ	子供の上手なしかり方・下手なしかり方	この本にはしかり方だけでなく子供のあらゆる行動についての対処法が書かれている。例えば、幼児期の子供は親に質問攻めをする時期がある。だが、今は忙しいからと放っておく親がほとんどである。しかし、これでは子供の好奇心を無駄にできてしまっている。なので、逆に質問してみることで好奇心を無くすこともない。よって、もし自分が親になったとき子供について困ったことがあれば参考にさせていただきたい本である。
畠中恵	しゃばけ	この物語の舞台は江戸時代で、妖怪が出てくるのが特徴だ。長崎屋の息子である若だんなの一太郎が、付喪神(仮)の事件に巻き込まれ周りの愉快な妖達の協力を得ながら事件を解決していく話だ。しかし事件に巻き込まれる割に彼は病弱で頻繁に死にかけている。実は彼の周りに妖怪がいることと彼の体がたいそう弱いには理由がある。それがこの物語のみそである。江戸時代の雰囲気を楽しみながら、驚きの結末を迎えてほしい。
鳩山友紀夫 白井聡 木村朗	誰がこの国を動かしているのか	この本には戦後の日本の歩みや歴史の流れが書かれており、そこから日本が今置かれている現状と日本を取り巻く国際関係の中でどのような方向性を持って今後日本は動いていくのか?とすることを鳩山さんをはじめとする3人が記している本です。この本の良いところは、政治の本は難しいという人でも会話形式の本なので比較的読みやすく、また1人の意見ではなく3人それぞれの見解があり色んな考え方を学べると思うところにあると思います。
飯島裕子	ルポ貧困女子	若い女性の中で近年増加する貧困、貧困女子と称された低所得の連鎖から抜けられない彼女たちの生の声を収録したルポルタージュ。親からの呪縛、学校・職場でのトラウマ、社会からのドロップアウトから立ち直れない……。依然として彼女たちに対する行政の対応は遅々として進まず、市民団体からの支援が主となっている現状はまだまだ変わっていない。それでも彼女たちは明日の生活のために懸命に生きようとしている。
尾形真理子	『試着室で思い出したら、本気の恋だと思う。』	体の一部にコンプレックスを感じる女性、年下に片思いをする女性、不倫に悩む女性。世の中には沢山の、悩みを抱え恋愛下手な女性がいる。そんな強がりや諦め、劣等感を感じずにはられない女性主人公達が訪れる路地裏のブティックには、人生を変える一着の服が存在した。不安な気持ちを払拭し、素直な気持ちで「彼」と向き合える。女性読者に読んでほしい、大人な女性の繊細な心情を事細かに綴られた作品です。
百田尚樹	永遠の0	太平洋戦争の終戦から60年目の夏、健太郎という青年は、死んだ祖父・宮部久蔵のことについて調べていた。宮部は当時の日本海軍のパイロット。「娘に会うまでは死ねない。妻との約束を守るために。」そう言い続けた彼は、自ら当時の戦闘機「零戦」に乗って特攻で命を落とした。なぜ生きることにこだわっていた宮部は特攻

コメント [依岡58]: 「一方では、」

コメント [依岡59]: 「……」

コメント [依岡60]: 「です・ます」調と「だ・である」調を混ぜない。

		へ向かったのか、その謎を解き明かすことで、ある意外な事実直面する。
百田尚樹	影法師	舞台は江戸時代。勘一は下級武士から筆頭家老にまで上り詰める。しかし、その裏には頭脳明晰で剣の達人と言われた竹馬の友、彦四郎の存在があった。この事実は彦四郎が不遇の死を遂げ、勘一がその真相に迫るまで気づかれることはなかった。まるで光の存在である勘一と影の存在である彦四郎。光の存在があるから影があるのか、影の存在があるから光があるのか。2人の男のそれぞれの生き様が描かれた作品。
百田尚樹	幸福な生活	最後の1ページをめくると再び究極のどんでん返しを味わえる傑作短編集。正直下衆な話が多い。2時間弱で19回も口を開けて呆然としたのは生まれてはじめてかも知れない。本の構成が上手いのだ。最後の1ページをめくると残り1、2行。そこで今まで読んできた情報が一気にひっくり返る。にもかかわらず、ストンと落ちてきてキレイにオチがつく。短編集ということもあって読みやすく、飽きない一冊だ。
百田尚樹	永遠の0	この本は、主人公の青年が祖母の葬式をきっかけに、戦争で死んだという本当の祖父の存在(義祖父をこれまで祖父だと思っていた。)を知り、その生涯についてかつての祖父の周辺人物から話を聞いてその経歴を知っていきという話の流れになっている。かつての知り合いの話を書く場面では、当時の状況を緻密に正確に表現し、戦争から縁遠くなった我々現代人に戦争のことを克明に伝えてくれるものになっている。
福沢諭吉。檜谷昭彦 現代語訳・解説	学問のすゝめ	この本は福沢諭吉の著書『学問のすゝめ』の学問を学ぶ上での様々な心構えを、初学者向けに、わかりやすく現代語訳で書いている。例えば、人に貴賤はないが、学問に励んだかどうかの差は大きい、ということや、国民と政府の関係性から、人々は法に従い役人は人民の代理人としての責務を果たさなければならない、というような教訓がある。しかし、あくまでこの本は初学者向けなので、この本を読んだ後に原文を読むべきだ。
米澤穂信	氷菓	主人公の折木奉太郎が高校に入学し、姉に言われるがまま古典部に入部しようとするところからこの物語は始まる。主人公がある1人の少女・千反田えると出会い、日常に潜む不思議な謎を次々と解き明かしていくことに。謎を解いていくと、千反田から「伯父からあの時、何を聞いたのか思い出したい。」とお願いされる。その願いを解いていくうちに30年以上前に作られた文集の題名についての謎を解いていくことになる。

コメント [依岡61]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

コメント [依岡62]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

米澤穂信	リカーシブル	主人公のハルカは弟のサトルと母のヨシエと母の生まれ故郷に引っ越してくる。引っ越し先でサトルは未来予知をしているようなことを言い出すようになり、最初は馬鹿にしていたハルカだったがその土地に伝わる「タマナヒメ」という存在を知る。ハルカはこの街に来て友達になったリンカと共に街の伝承について調べ始めるが、リンカは不審な行動を見せるようになり、そして徐々にリンカの正体と弟の予言の謎が明らかになっていく。
北方謙三	水滸伝 曙光の章	この本は、1000年程前の中国北宋時代を舞台とした物語です。108人の登場人物が梁山泊と呼ばれる山砦に集結し、墮落した官僚たちを更生させ、すっかり腐敗してしまった世の中をもう一度立て直そうと奮闘する話です。原典は中国の書物であるため様々な方が水滸伝という本を出版されていますが、108人がどんな人物なのかを詳しく綴り、戦いの場面で臨場感が溢れているというところがこの作者の水滸伝の大きな特徴です。
牧野高吉	英語の論理 日本語の心	言葉は文化だ。日本語と英語は、文化が違う国の言葉である。だから、英語を学ぶ際は、日本語とは発想が違うものとして捉えなければならない。しかし、文化というものは無意識の中に存在しているものであるため、無意識に日本語の発想のまま、英語を捉えようとする。だから英語を難しいと感じるのだ。この本では、どのような場面で発想の違いがあるのかが書かれており、発想法の違いを意識させてくれる内容になっている。
妹尾河童	少年 H 上巻、下巻	Hが小学五年生の時、戦争が始まった。Hが大好きな映像技師のお兄ちゃんが、召集を逃れて自殺。父親がスパイ容疑で逮捕される。中学生になったHは軍人教官から「反抗的だ!」とマークされ、殺されそうになる。戦争の影が不気味に忍び寄り、戦争が日々激しさを増していく様子、さらには戦争が終わった後も続く暮らしの残酷さをも綴った妹尾河童の自伝的小説。子供視点の「戦争の時代」が鮮やかに描かれる。
又吉直樹	火花	お笑いコンビ・スパークスの徳永は、熱海の営業で、4歳上の先輩芸人・神谷に出会う。自分にはない面白さを持つ神谷に憧れ、神谷と親交を深めていった。しかし、10年目にコンビを解散し、両方芸人を辞めることになった。ある日神谷の誘いで熱海へ出かけ、そこで漫才大会に出るために、ネタを作る神谷を見て、徳永は「生きている限り、パッドエンドはない。僕たちはまだ途中だ。これから続きをやるのだ」と思うのだった。
万城目学	かのこちゃんとマドレーヌ夫人	この本は特に殺人事件が起こるわけでもありません。タイトルにもあるかのこちゃんという小学一年生になった女の子と違う町から放浪してやってきたネコのマドレーヌ夫人が雨の日に偶然出会います。みどころは小学校に入るまでは親指を常に口にくわえているような女の子が少しずつ成長していくところです。もう

コメント [依岡63]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

コメント [依岡64]: あらすじだけではなく、読みどころも書いてほしい。

		一つはかのこちゃん目線からのストーリーとマドレーヌ夫人のネコ視線からの同じストーリーの二つを楽しめるところです。
湊かなえ	贖罪	校庭で遊んでいたある日、一人の見知らぬ男が現れ親友の女生徒が殺害されてしまう。その現場に居合わせた4人は恐怖のあまり逃げてしまうのであった。それを殺害された子供の母親に咎められ「母親が納得できる償いをする」「犯人を見つけること」と脅迫されてしまう。それぞれが贖罪を抱えながら大人になっていく。15年後に明かされる事件の真相、4人の告白と償い。悲劇の連鎖が作り出す人間の本性を描いたストーリー。
湊かなえ	豆の上で眠る	小学一年生の時、主人公の結衣子の姉である万佑子が失踪した。二年後、姉は無事に帰宅したが、結衣子はどこか違和感を覚える。以前とはまるで異なるやせ細った姿、消えた目元の深い傷痕。しかし、父や母は知らない、失踪する以前の、秘密基地や遊んだ後食べたお菓子といった二人だけの秘密を知っている。それでも違和感は拭えない。大学生になった今でも拭えない。お姉ちゃん、あなたは本物なの?衝撃の姉妹ミステリー。
湊かなえ	白雪姫殺人事件	物語は、日の出化粧品に勤めている美人OLの三木典子が殺害された事件の犯人として赤星雅治が発信した情報により、同じ会社に勤めている目立たない地味な城野美姫が典子に対する逆恨みが動機として犯人に仕立て上げられ、世間の人から大きなバッシングを受け行方不明になるが、美姫の過去を掘り下げながら真犯人が明らかになってくるというものだ。真犯人が誰かという面白さの他に、ネット社会の怖さなども書き出されている。
湊かなえ	夜行観覧車	高級住宅街の向かいの家で起きた殺人事件をきっかけに家族の絆とは何かを考えさせられるストーリーだ。父親が被害者で母親が加害者なのだ。遺された子供たちはどのように生きるのか。なぜ念願の高級住宅街に一戸建て家をたてたのに殺人事件が起きたのか。両家に何がおこり、何が彼ら変えたのか。衝撃のラストが待ち受ける、手に汗握るストーリーだ。
湊かなえ	夜行観覧車	憧れの高級住宅街に引っ越し、夢だった幸せな生活を送ることとはほど遠い暮らしをすることになる遠藤家の物語だ。ある日、高橋家の夫が殺害される事件がおきる。遠藤家では受験に失敗した娘が家庭内暴力をし始める。そして2つの家庭が崩壊していく姿を見つめるようにある1人の女性の存在も描かれている。読み終わりにつれて、この街で起こる不可解な出来事の衝撃の真相が明らかになり、人間の本当の部分を実際に書かれている作品。

湊かなえ	告白	中学校教師の娘が死んだところから物語は始まる。娘は警察に学校のプールに落ちた事故死として診断された。しかし、ある生徒の告発から実は生徒に殺されたことを教師は知る。それを聞いた教師は復讐を行い教師はクラス全員の前でその生徒に対して復讐したと告げる。その後、物語は事件に携わっている生徒一人一人の立場で一章ずつ描かれており次第に事件の全体像が明らかになっていき最終的にすべてが繋がり読者を一気に引き込む。
夢枕獏	陰陽師 醍醐ノ巻	時は平安の世。モノノ怪と人々が共に暮らした時代。闇巢食う京の都に安倍晴明という1人の陰陽師があった。友人、源博雅と共に、人ならざるモノたちの起こす怪奇の数々、時には同業者の呪いの類いまで、陰陽の道を持って解決する爽快な歴史ファンタジー物語。哲学的な一面もありながら、晴明と博雅の友情を描いた場面はしつとりと柔らかく、心惹きつけられる。安倍晴明を主人公とした短編小説となっている。
野口健	自然と国家と人間と	登山家の野口健さんの、エベレストなどの難易度が高い山を登っている時の、仲間が目の前で死んでしまったり、野口さん自身が生死をさまよったりする過酷な経験が生々しく著されている。また、富士山の山頂付近でたくさん落ちているゴミを拾うボランティア団体を作り、積極的に山の清掃活動をしていることについても書かれており、ボランティアは実際にやってみないと現状が分からないので、経験するべきだと学んだ。
野田洋次郎	らりるれ論	「君の名は」で一躍有名となったロックバンド RADWIMPS のボーカル野田洋次郎の日記を書籍化したもの。メディア露出前の1人の人間の繊細な心の動きを日記というかたちで楽しむことができる。哲学的な歌詞で有名であるが、その日記に記されている心のあり方は私たちと変わらないのだと感じた。
有川浩	図書館戦争	普段当たり前のように手に取ることのできる本。しかし、この世界では違います。図書館の自由が侵されそうになり、主人公は仲間とともに立ち上がり、戦うのです。そんな彼女の熱い思い、仲間との絆に胸を撃たれること間違いなしです。また、上司であり、仲間でもある教官との恋愛模様も見逃せません。そんな男女問わず楽しめる、最後までハラハラする展開にご期待ください。
有川浩	阪急電車	兵庫県の阪急今津線を舞台にした物語です。大きな章が2つあり1つ目は宝塚駅から西宮北口駅行き、2つ目は折り返して宝塚駅へ向かう感じです。小さい章は宝塚駅、宝塚南口駅などと駅ごとに分かれています。それぞれの駅ごとのエピソードは全く違ったものですが、折り返した後に、そのエピソードたちがだんだんと1つに繋がっていくところが読みどころです。

有川浩	県庁おもてなし課	掛水史貴は高知県の観光部所属の若手職員。仕事熱心だがその情熱さは他の職員にはなかなか伝わらず、気づけば観光部の閑職に回されていた。そんな彼が新たに配属されたのは、「おもてなし」の心で県の観光を盛り立てようと創設された「県庁おもてなし課」。掛水はその仲間たちとともに県を盛り上げようと奮闘するがなかなか上手くいかない。仲間との絆、ちょっぴり恋も混じった心温まるストーリー。
有川浩	レインツリーの国	大学卒業後、関西から上京して入社3年目の主人公、向坂伸行。聴覚障害を持つヒロイン、ひとみ。二人を繋いだのは、一冊の忘れられない本だった。今になってふと思い出し、何気なくパソコンでこの本を検索した結果、伸行は「レインツリーの国」というブログに辿り着く。そこで知り合ったのがブログの管理人のひとみだった。そして、二人に立ちちはだかる「障害」という壁。それでも、二人は真正面からぶつかり合うことを選んだ。
有川浩	三匹のおっさん	剣道家のキヨと幼馴染で柔道家のシゲ、電気マニアのノリと共に町内に蔓延る悪をそれぞれの特技を用いて体当たりで撃退していく物語である。町内の悪は詐欺、痴漢。見どころはノリのスタンガン使用の必殺技「則夫(本名)エレクトリカルパレード」の発動シーンである。また、キヨの孫である祐希とノリの娘である早苗は交際しており、早苗を溺愛しているノリは祐希を警戒している。祐希もまたノリを脅威に思っており水面下で繰り広げられる二人のも心理戦も面白い。
立石一	-吉野川は阿波の金蔵 -吉野川の育てた農業特産物	この本は吉野川の農業特産物についてはもちろんですが、その他にもどんな地盤になっているから吉野川が出来たのかなどの歴史も詳しく知ることが出来ます。縄文時代から時代列ごとに詳しく書いてあるのでとても分かりやすいですし、本当は吉野川の堤防を作るのに反対だった人たちがなぜ堤防建築を認めるようになったのかなどの過程も知ることが出来ます。暇な時に見るのではなく他の授業で調べ物などがあった時などに活用してほしい本です。
鈴木孝夫	日本語と外国語	前半では日本人と外国人の認識の違いとそれに伴う言葉の違い、日本語と外国語は完全に同じニュアンスで訳すことはできないということが書かれており、国際交流が活発になった今、異なる文化の人間を理解する手がかりになるかもしれない。また後半ではカタカナ語が溢れる現状に一石を投じる内容が書かれており漢字を書く機会が減った今だからこそ読む価値がある。
暉峻淑子	対話する社会へ	現代に生きる私たちのあらゆる局面で喪われている「対話」。私たちは「対話」を自ら回避し遠ざけ、喪っている。その一方で「対話」に飢えた人々も存在する。本当の話がしたい、生の人間との対話がしたい、そうした人々も存在するなかでなぜ日本では「対

コメント [依岡65]: あらすじだけでなく、読みどころも書いてほしい。

		話」が喪われていくのか。その結果私たちに何が起きているのか。そもそも「対話」とは何か。豊富な例示をもとに「対話」について説く、現代に生きる私たちに必要な一冊。
濱口博章・山口格太郎 共著	日本のかるた - 小倉百人一首の背景 -	この本は、小倉百人一首の成り立ちなどを紹介している本である。最近、『ちはやふる』などの影響で競技かるたの人気の高まっている。しかし、大抵の人は聞いたことがある歌が一首あるだけだろう。実際競技かるたをしている人の中にも、歌の意味を考えたことがない人もいる。百人一首の歌は現代にも通じる歌も多い。ぜひ、この本で百人一首の空気に触れてほしい。心を打たれるようなお気に入りの一首が必ず見つかるだろう。